

教育学は授業改善にどう貢献してきたのか？
—授業研究の立場から—

吉崎静夫
日本女子大学

第1期の「授業研究」の特徴
—1960・70年代—

- 現場の授業の改善に貢献する様々な技法の開発→「授業改善視点表」「線結び式授業の内容分析」「コメント法による授業設計」
- 授業評価から授業創造（授業設計・実施）への手順・技法の開発→普遍的授業からの改善
- 授業コミュニケーションの分析→「カテゴリー分析」「フリーカード法による分析」

第1期の「授業研究」の特徴
—代表的な著作—

- 水越敏行（著）『授業改造の視点と方法』明治図書、1979年
- 坂元昂（著）『授業改造の技法』明治図書、1980年
- 西之園晴夫（著）『授業の過程』第一法規、1981年

第2期以降の「授業研究」の特徴

- 1980年代から現在—
- 授業研究と教師教育の結びつき
→教師の授業力量形成、教師の成長
 - 授業研究と情報教育の結びつき
→授業におけるIT活用、遠隔共同学習
 - 「現場第一主義」と「現場教師との共同研究」
→カリキュラム開発、学習環境デザイン

授業研究と教師教育の結びつき
—代表的な著作—

- 吉崎静夫（著）『教師の意思決定と授業研究』ぎょうせい、1991年
- 浅田匡・生田孝至・藤岡完治（編）『成長する教師—教師学への誘い—』金子書房、1998年
- 木原俊行（著）『授業研究と教師の成長』日本文教出版、2004年

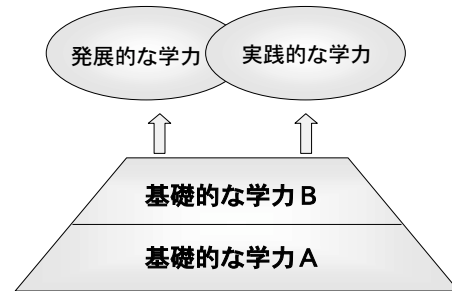
授業研究と情報教育の結びつき
—代表的な著作—

- 永野和男（編）『これからの情報教育』高陵社書店、1995年
- 水越敏行（編）『メディアを活かす授業づくり』ぎょうせい、1999年
- 赤堀侃司（編）『情報活用能力を伸ばす』ぎょうせい、2000年

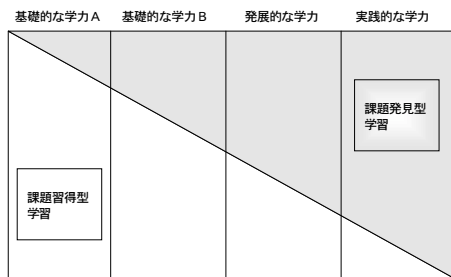
「授業研究」の課題

- 多様な学習形態とIT活用
 - 共通学習（一斉学習）でのIT活用
 - 補充学習と発展学習でのIT活用
 - 合科的学習でのIT活用
 - 総合的学習でのIT活用
- 多様な学力の育成とIT活用

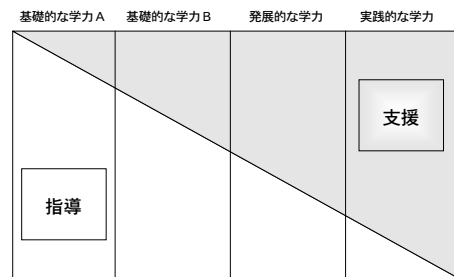
四つの学力の相互関係



四つの学力と「課題習得型学習」「課題発見型学習」との関係



新教育課程で育てる学力と教師の指導・支援との関係



わが国の「教育工学」の課題 —特に、授業研究において—

- 2つの主要な研究アプローチの連携
 - 工学（システム工学、情報工学、電子工学など）に基礎を置く研究アプローチ
 - 教育学（教育実践学、教育方法学、教科教育学など）に基礎を置く研究アプローチ
- 教育学に基礎を置く「教育工学者」の養成体制の弱体化